

シニア・ストラテジスト  
山本 雅文

マネックス証券株式会社  
www.monex.co.jp

## ドル買いは対円以外で

### 昨日までの世界: 暴れん坊ハマコー?!

昨日は、中国輸出入統計の悪化を受けて豪ドルや NZ ドルの下落が大きかったほか、全般的なドル高傾向の中でブラジルレアルやトルコリラといった高金利通貨の下落も大きかった。

この間、ドル/円相場は、欧州時間入りまでは全般的なドル高基調の中で一時 120.84 円へ上昇したが、その後これまでのアベノミクス推進の理論面での推進役だった浜田内閣官房参与が、120 円水準で円はかなり割安で、105 円くらいが妥当としたほか、日銀の 2%インフレ目標についても 2%にこだわる必要がないと述べたことから、一時 119.71 円へ急反落した。タイミングがサプライズだったが内容的には青天の霹靂というわけではなく、ドル高シナリオの下で安値でのドル買戻しもみられ、その後 120 円台を回復したが、昨日は米中長期債利回りが低下基調であったため、ドル反発は限定的だった。

豪ドルは、中国 3 月輸出入統計が市場予想を下振れし、輸出が前年比-14.6%(市場予想+8.2%)、輸入が前年比-12.3%(市場予想-11.3%)となったことから、内外景気の鈍化が意識され、特に中国景気減速の悪影響を受け易い豪ドルや NZ ドルが対米ドルで 1%以上下落した。こうした中、ドル/円の軟化もあって、豪ドル/円は 92 円台前半から一時 90.88 円へ、NZ ドル/円は 90 円台半ばから一時 89.13 円へ下落している。

ユーロは、引き続き特段の材料がない中で、ドル高傾向を受けて先週金曜とほぼ同様に欧州時間入り後に下落し、対ドルで 1.06 ドル丁度近辺から一時 1.0521 ドルへ、対円では浜田参与発言を受けたドル/円の下落もあって 127 円台半ばから一時 126.51 円へ大幅に下落した。

## きょうの高慢な偏見:ドル買いは対円以外で

### [今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

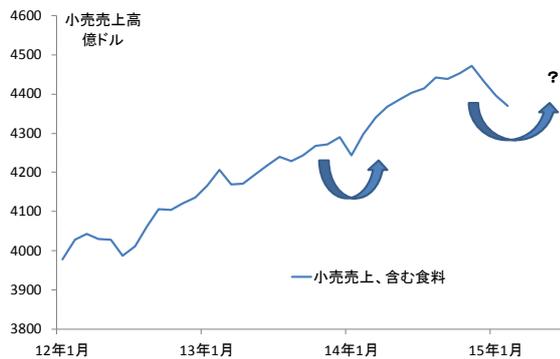
本日は米3月小売売上高の回復程度が最大の注目だが、豪州のNAB企業景況感や英CPIも重要で豪ドルやポンドも大きく動く可能性がある。

今後の米国経済、米金融政策および米ドル動向を占う上で、1-3月期の景気がどの程度弱いのか、一時的な弱さなのかが目先は最大の注目点となっている中で、本日の小売売上高が1、2月と弱い結果が続いただけに3月分がどの程度回復するのか、非常に重要だ。総合で前月比+1.0%、除く自動車でも+0.7%の回復が予想されており、市場予想通りでもある程度ドル下支えとなるが、市場予想を上回る回復を示す場合には、早期利上げ期待が高まり米金利の上昇と共にドルが大きく上昇しそうだ。但し、昨日の浜田参与発言もあったように本邦政府は円安歓迎ではない中で、ドル高はその他通貨、特に当局が通貨安を歓迎している対ユーロの方が大きくなりそうだ。引き続き、ユーロの対ドル相場は直近安値である1.0458ドル割れを意識した展開となりそうだ。

豪州では、このところ鈍化しているNAB企業景況感、信頼感が、鉄鉱石価格の続落などを受けて更に悪化していないかが注目度、更に悪化する場合には今後豪州で更に失業率が上昇したり設備投資が鈍化するリスクが意識されることから、豪ドル続落に繋がりそうだ。

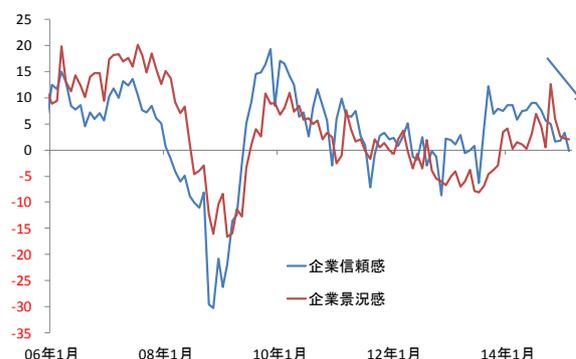
ポンド関連では英CPIが注目される。英国ではCPI前年比がゼロ%と、インフレ目標レンジ(1-3%)の下限を下回っているだけでなくマイナス化寸前となっており、本来であれば追加緩和期待が高まってもおかしくない状況だが、Carney総裁はじめBoE高官の多くが、足許のCPI低下は原油価格下落を受けた一時的要因によるもので、むしろ消費刺激効果もあると述べている。また、既に3月分が発表されているユーロ圏分インフレ率は原油価格の下落一服等を背景に2か月連続で持ち直しており、英国でも同様の動きから反発し市場予想を上回るようだと、ポンド持ち直しに繋がるだろう。但し、BoE委員で唯一Haldane委員(チーフエコノミスト)が低インフレを重視し利下げの可能性にも言及している。今回市場予想を下回るとCPIがマイナス化することから、Haldane委員のハト派的なスタンスが再び取りざたされるかたちとなり、BoEの利下げ期待からポンド安になるリスクもある。

米国の小売売上高



(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

豪NAB企業景況感、信頼感の推移



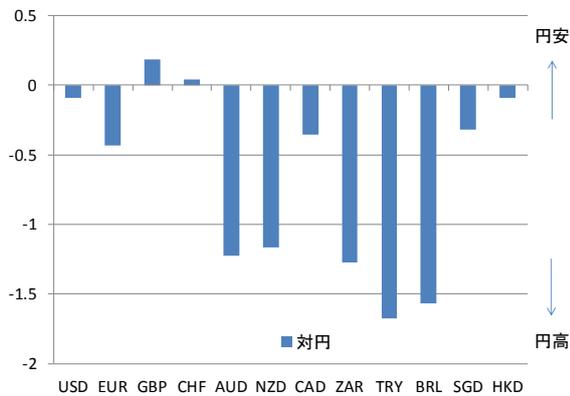
(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

原油価格とユーロ圏および英国の総合CPI(前年比)



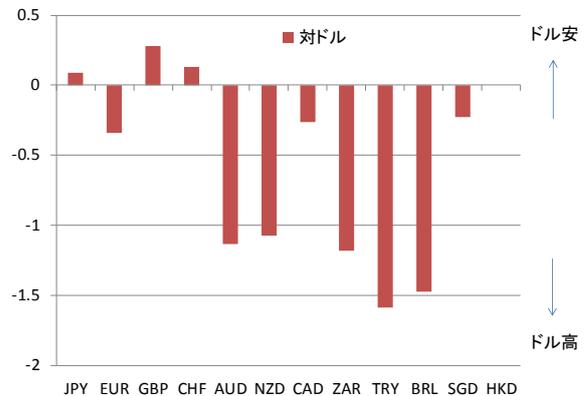
(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対円相場（前日比%）



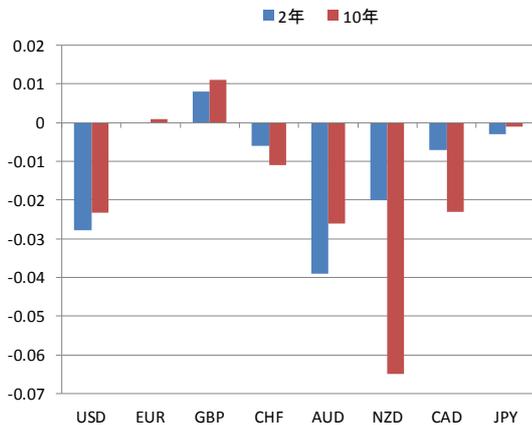
(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場（前日比%）



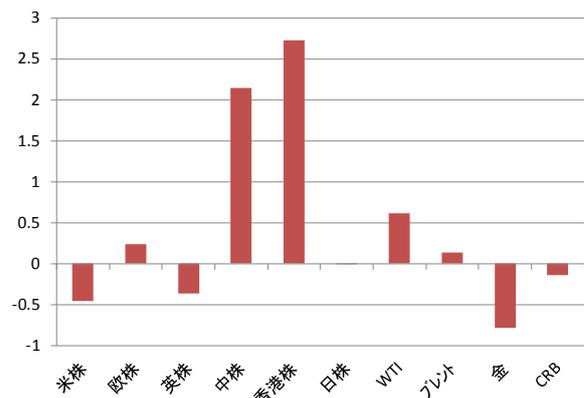
(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り（前日差%ポイント）



(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格（前日比%）



(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。

・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。

・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。

・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、(社)金融先物取引業協会